

イザヤ書 第55章 10節

「雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。」

久しぶりの雨である。渇いた冬に空気を湿らす穏やかな雨が降った。冬空からの雨は冷たいが、地の草や枯木立には丁度良いお湿りである。これで、寒風にさらされ、どこまでも渇くときは少し先になった。地表の潤いばかりか、来春に新たないのちを育む力を蓄える雨でもある。

曇天から雨雲、湿りから冷たい滴、どれをとっても受けてである地には恵みである。曇った空では鬱陶しいと思う者もいる。冷たい滴では難儀だと思ふ者もいる。濡れた衣は重苦しいと嘆く者もいる。しかし、天から降る雨は、必ず地を潤し、その務めを果たす。種蒔く者には翌春の種を与え、食べる者には今日のパンを食卓にあげる。それが、必ず起こる。

自分の見立てでは苦しいことばかりになりがちだ。しかし、天を仰ぐと、大きな恵みの循環を教えられる。たとえ、地上で様々な言葉を吐く者たちがいたとしても。天から降る雨や雪は黙って降り続ける。天の父なる神のみこころのままに降ることを止めない。地も、恵みを受けることを拒否しない。地に立つ者たちを支えている。